

レジリエンス協会

- 帰宅困難者支援施設 運営ゲーム KUG -

東京大学大学院 准教授 廣井 悠

2018年6月19日(火)

そもそも 問題点

「次」には
どうなるのか??

帰宅困難者が人の死に繋がる(間接的)条件

	東日本大震災(東京)	東日本大震災(仙台)	爆弾低気圧(東京)	大阪府北部地震	首都直下&南海トラフ
(1)大都市である	◎	△	◎	○	◎
(2)鉄道が止まる (特に平日の昼間)	◎	◎	×	△	?
(3)都市で甚大な被害が発生する	△	○	×	△	想定すべき災害は◎
(4)一斉帰宅が発生する(歩道)	△	△	×	△	?
(5)一斉帰宅や迎え交通が発生(車道)	△	△	×	△	?

これまでは、帰宅困難者は発生したものの、前提条件がとても緩い

青：帰宅困難者の発生条件

橙：帰宅困難者が被害に

赤：過密空間

緑：消防&救急阻害

開発経緯

帰宅困難者対策 は他の防災対策と 何が違うか??

□ 「帰宅困難者対策」の(他の防災対策にはない)特徴

(1) 多様な主体のもとで進める「防災対策」である

これまでの防災対策は、ともすれば「行政」「個人」が主な主体であったが、「企業」が重要な主体に。防災対策としては新しい。それゆえ役割分担の調整が必要。

(2) 地域によって大きく対策の傾向や意義が異なる

帰宅困難現象は大都市特有の問題であり、その傾向や優先順位、意義は「都市の規模・特徴」によって異なる。自分の自治体・地域がどのような地域特性であるか、どのような帰宅困難者対策を必要とするか、共有しないといけない。

事業所ごと
に違う!!

(3) 基礎自治体の枠を超えた「広域的な課題」である

「行政」「個人」「企業」の役割分担も必要だが、「行政」内でも国、広域連合、都道府県、市区町村と様々な連携が必要となる。

(4) 強いベテランバイアスが存在(特に一般の人に)

東日本大震災時の首都圏が唯一無二の教科書になってしまっている傾向。
東日本大震災と同じレベルの対応は望めないことも周知すべき。

東日本から7年、 これからの課題

□大前提の「一斉帰宅抑制」をどう実現するか

◆ どのように一般の人々に啓発するか。

- ・ 帰宅困難者自身にどう啓発するか(特に東京都民以外)
- ・ 帰宅困難者対策に関する「誤解」がまだ残っているような気がします
- ・ 帰宅困難者支援施設運営ゲーム(事業所滞留版)によって社内の理解

◆ 中小企業をどうするか

- ・ これまでは一時滞在施設の確保に比較的重きをおいていた雰囲気があり、中小企業の一斉帰宅抑制に関してはあまり進んでこなかった
- ・ レベル1:まずは社員を帰宅させないで(→ココがこれまでは「条例」「啓発」だけであった)
- ・ レベル2:スペース, マンパワー, 備蓄のうちひとつでも提供して
- ・ レベル3:一時滞在施設として開設して
- ・ レベル1の帰宅困難者対策を行うことによる、(直接的な)メリットの付与

◆ 社内の理解をどう深めるか

- ・ トップセミナーの開催
- ・ 「現場担当者」への押し付けにならないように

□92万人問題をどう解決するか

◆一時滞在施設の拡充

- ・ 事業者免責に関する仕組みづくりの問題(責任は、やはり行政では?→個人的見解)

前記の報告書より

・ このため、**民間施設に損害賠償責任が及ばない免責のしくみづくり**に向け、引き続き検討を進めていく必要がある。
・ なお、事業者免責のしくみを検討するに当たっては、帰宅困難者対策が、緊急車両の通行、道路啓開作業等に支障がないようにするという公共政策的意味合いがあることを踏まえ、**帰宅困難者の損害を自己責任(単に請求権を認めないもの)**とならないよう留意する必要がある。

- ・ 行き場のない帰宅困難者に対する備蓄購入助成(更新費用は、東京都ではなんとかなりそう。)
- ・ 協定を結んだところでは、容積率緩和したり、防災行政無線をつけたり、アプリをつくってあげたり

◆一時滞在施設の質的確保

- ・ 事用援護者対応の拡充
- ・ 例えば、施設のバリアフリー情報を協議会や行政などが把握するとか、やさしい日本語とか

◆一時滞在施設未満の施設確保(名称未検討)

- ・ 一時滞在施設を「松」とすると、「竹」とか「梅」とかの施設
- ・ 1日程度なら大丈夫、とか屋外だけど、など
- ・ とはいえ一時滞在施設の拡充も重要なので、どうバランスをとるか問題

□ 「開設まで」のオペレーションをどうするか

◆ 一時滞在施設開設までをどうのりきるか

- ・ 建物のチェックが終わるn時間後までが、おそらく一番大変。
- ・ 駅前などでは協議会単位でのコントロールが必須。具体的行動基準の明確化。
- ・ 一方で、駅前協議会の存在しない地域では？
- ・ 地区内残留地区を除き、避難誘導などはどうするか。

◆ 安全確保計画と帰宅困難者対策の調整

- ・ 上記は、安全確保計画ではそれなりに決まっているので、参考にするとよい
- ・ ただし「名称が違う問題」を解決する必要性
- ・ 「帰宅困難ボランティア」などの可能性

◆ 地域住民との関係

- ・ 避難所と一時滞在施設の使い分けの徹底
- ・ 傷病者対応

□一時滞在施設をどう運営するか

事業所がその役割を担わざるを得ないものの、様々な問題が山積み

◆ 滞留スペースの確保・管理に関する問題

- ・ 滞留スペースの準備
- ・ 滞留スペースの安全性把握
- ・ 滞留スペースの管理

◆ 物資の確保・分配に関する問題

- ・ 物資の確保
- ・ 物資の配置
- ・ 物資の分配

◆ 滞留者の管理に関する問題

- ・ 滞留の積極的な周知
- ・ 滞留者の把握
- ・ 滞留者への情報伝達
- ・ 施設の閉めかたと帰宅計画
- ・ 滞留者の活用
- ・ なにかあった場合の責任の問題

なので、「受け入れ」のマニュアルを作ったり訓練をしたりする必要があるものの、現状ではなかなか進んでいない。

ツールの 紹介

「滞留」させるための 図上訓練

KUG

(帰宅困難者対策支援施設
運営ゲーム)

帰宅困難者支援 施設運営ゲーム (一時滞在施設版) KUG ①

□ 帰宅困難者支援施設運営ゲーム

一時滞在施設版 KUG①

東京大学廣井研究室で開発中

避難所運営ゲーム(HUG)を参考に、帰宅困難者の受け入れに関する図上訓練ツールのパッケージ化を行っている(そもそも受け入れられるかどうかの検討を簡単にしてもらったり、受け入れるとしても実際に訓練するのはかなり大変なので、まずは少人数で図上訓練でやりましょうという試み)。首都圏では丸の内、新宿、銀座、みなとみらいなどで行いました。関西でも行っています。

特徴(1) 実際の施設図面(準備できない場合は、モデル図面を用意してあります)をもとにして、レイアウトや動線、受付の位置などから、支援要員が何人必要か、どのような手段や準備が必要かを考えることができます。

特徴(2) この結果、受け入れマニュアルを作ったり、修正したり、何人受け入れることができるか、そもそも帰宅困難者を受け入れることが可能かどうかを検討することができます。

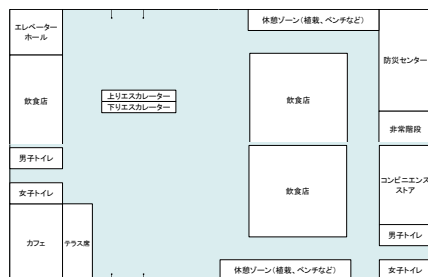
「手続の確認」をする実働訓練の前に、受け入れるかどうかを判断する、方針を決める、理解を深める、手軽に疑似体験をする、のが目的



□本キットは主に4つのアイテムを使う

施設設定

主に、施設の図面[1/50]と、資材・備蓄品のリストで構成。
図面や資材・備蓄品リストは、検討対象となる実際の施設のものを利用することが原則であるが(その際には、「帰宅困難者コマ」と縮尺を合わせるため1/50の図面を用意)図面が手に入らない場合はモデル施設の図面を用いる。



帰宅困難者カード

受け入れる帰宅困難者の様子(「属性」「名前」「居住地・勤務地」「年齢・性別・状況」「負傷・要援護の有無」「状況・行動」)について示したカード。

イベントカードと対応する番号が振られている。カードが受け入れた帰宅困難者のリストとなる。

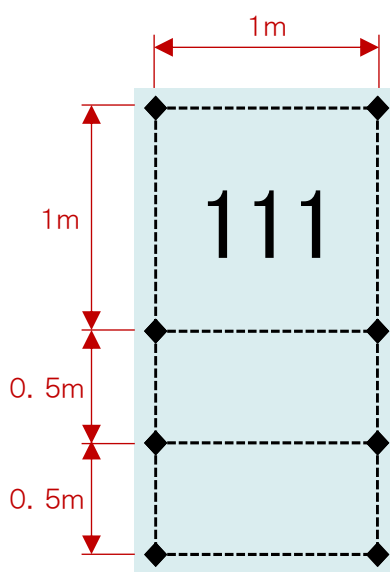
125
東北地方 からの 旅行者
吉田 さん
【男 54 歳】 外出中
負傷
街を歩いている途中で地震に遭遇した。転んでしまい、足をひねってしまった。

帰宅困難者コマ

施設に受け入れた帰宅困難者にどこで待機してもらうのかを検討するためのコマ。

帰宅困難者カードと対応した番号が振ってある。

メモリが入っていますので、折ることによって一人当たりどの程度のスペースを占拠しているか分かるようになっている。



イベントカード

帰宅困難者の受け入れ後に、施設内で発生する「イベント」を記載したカード。

このカードをきってめくり、施設の運営方法や帰宅困難者等への対応方法を検討。

複数グループでゲームを実施する場合には、イベントカードを共通として、対応を比較・議論することも有効。

No. 4
イベントカード
支援施設から出たいという帰宅困難者が現れました。
【対応事項】 サイコロを1つ降って希望者の人数を決めてください。希望者の人数の回数だけサイコロを3つ振り、出た目の帰宅困難者を施設から送り出してください。(該当する帰宅困難者がいない場合には該当者なしとしてください。)

(1) 役割分担を決める

(2) 受入基本方針を決める

(3) 帰宅困難者を受け入れる

(4) イベントへ対応する

(5) 施設を閉鎖する

各施設の対応人数や想定するサービスレベルに応じて役割分担を決める (フルスペックだと以下の通り)

施設管理者

ゲームを進行する上で、各担当への指示のほか、「イベント」への対応について、中心となって検討して施設としての対応方針を決める。

情報連絡係

イベントカードの内容をグループで共有する。

受付係

帰宅困難者カードをめくり、カードを並べる、束ねる等することで「名簿化」して、受け入れた帰宅困難者の管理と共有化をしてください。

支援物資配布係

配付した備蓄品や使用した資材等について、数量の管理を行う。

安全係

誘導係と連携して、受入スペース等における通路等の確保する。また、当初定めたレイアウトを基にゲームをスタートするが、ゲーム中にレイアウトの変更等の要否を検討し、必要に応じて変更する。

誘導係

帰宅困難者に対応した「帰宅困難者コマ」を安全係と連携して「受入スペース」に配置する。配置の際には一人当たりの広さを考慮する。

負傷者対応係

傷病者対応スペースの管理を行うとともに、負傷した帰宅困難者や要援護者への対応について検討する。

人数に
応じて

レイアウトと動線と配布する備蓄品を決める

□ レイアウト(ゲーム中に随時変更可能とする)

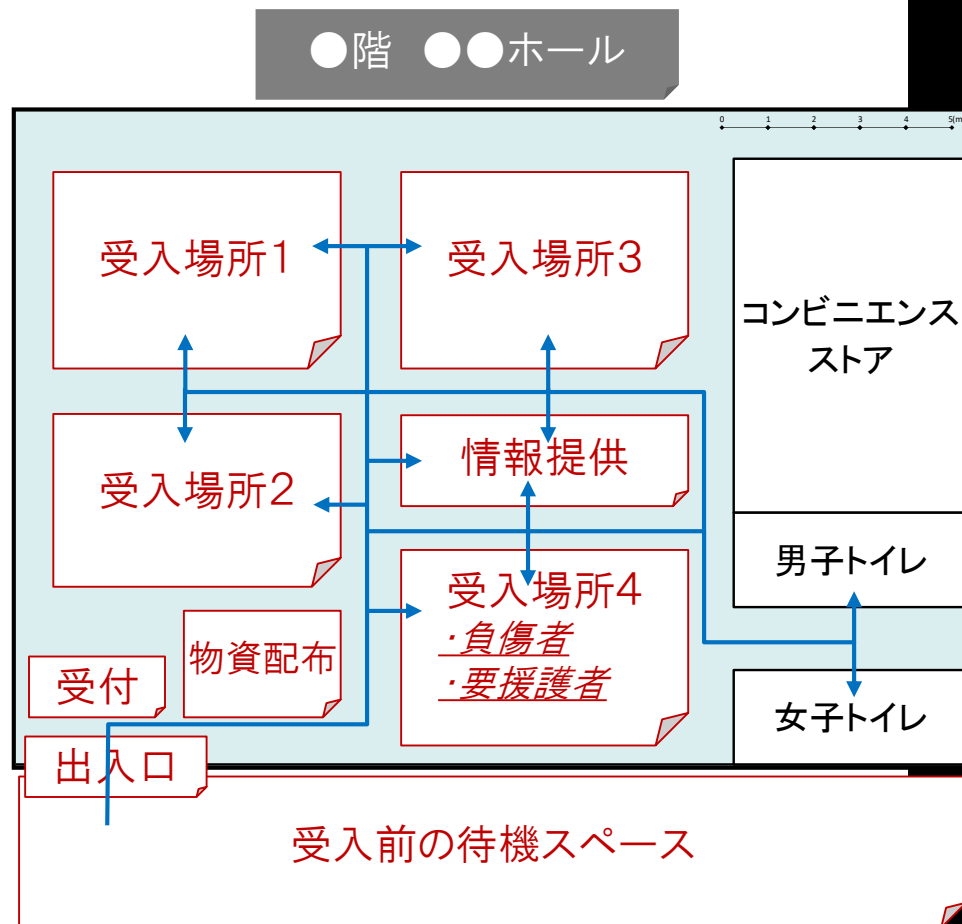
- ①受付
- ②受入場所(必要に応じて”対象別”)
- ③受入前の待機スペース
- ④備蓄品配付スペース
- ⑤情報提供スペース
- ⑥その他(立入禁止地区、閉鎖通路)等

□ 動線

- ◆ 帰宅困難者の受け入れ・移動の動線

□ 受入時の配布備蓄品

□ その他



(3)帰宅困難者を受け入れる

30分



- 配布した「**帰宅困難者カード**」をめくり、施設での対応を考える。
- 受け入れた帰宅困難者に対応する「**帰宅困難者コマ**」を施設内レイアウトに基づき配置する。帰宅困難者カードは**名簿として整理し共有**する。
- 施設内に入りきらない場合には、**受入を断るか、施設内のレイアウトを変更**する等で対応する。

111 九州地方 からの 旅行者 佐藤 さん 【 男 53 歳】 外出中 街を歩いている途中で地震に遭遇した。土地勘がなく、どこに行けばいいのかわからない。	125 東北地方 からの 旅行者 吉田 さん 【 男 54 歳】 外出中 負傷 街を歩いている途中で地震に遭遇した。転んでしまい、足をひねってしまった。	262 川口市 在住の 専門学校生 中山 さん 【 女 18 歳】 外出中 学校が終わって、バイト先に向かう途中で地震に遭遇した。	161 海外 からの 旅行者 劉 さん 【 男 59 歳】 外出中 銀座で買い物中に地震に遭遇した。荷物が多くて困っている。日本語は全くわからない。ガイドブックだけが頼り。	325 東京23区 在住の 主婦 宮崎 さん 【 男 31 歳】 帰宅中 学校に子どもを迎えに行った帰りに地震に遭遇した。	326 東京23区 在住の 小学生 宮崎 さん 【 女 10 歳】 帰宅中 学校が終わって、帰宅途中で地震に遭遇した。
---	--	--	---	--	--



(4)イベントに対応

20分



- 進行担当が「**イベントカード**」をめくり、**「対応事項」**の内容を検討する。(1イベント 約4分×5イベントくらい)

(注)進行担当がいなかった場合には各班でめくりま

- 進行担当が対象者や対象人数を決めるので、対象者を考慮して検討。

(注)進行担当がいなかった場合には、サイコロを振って該当者を決める。該当者がいない場合には「該当者なし」とする。)



No. 1
イベントカード
受け入れた帰宅困難者から質問です「タバコはどこで吸えば良いですか？」
【対応事項】 必要な対応を検討してください。

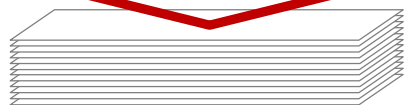
No. 4
イベントカード
支援施設から出たいという帰宅困難者が現れました。
【対応事項】 サイコロを1つ降って希望者の人数を決めてください。希望者の人数の回数だけサイコロを3つ振り、出た目の帰宅困難者を施設から送り出してください。(該当する帰宅困難者がいない場合には該当者なしとしてください。)

No. 7
イベントカード
大きな余震が発生しました。おびえている帰宅困難者も多数いるようです。
【対応事項】 必要な対応を検討してください。

No. 10
イベントカード
受け入れた帰宅困難者から質問です「ペースメーカーを入れているのですが、周りで携帯電話等をつかっているのが気になります。なんとかありませんか？」
【対応事項】 必要な対応を検討してください。

No. 13
イベントカード
受け入れた帰宅困難者同士で派手な喧嘩がはじまりました。なんとかしてください。
【対応事項】 必要な対応を検討してください。

No. 16
イベントカード
急な発熱を訴える帰宅困難者が発生しました。
【対応事項】 サイコロを3つ振り、出た目の帰宅困難者を該当者として、必要な対策を検討してください。(該当する帰宅困難者がいない場合には該当者なしとしてください。)



- 時間が経過し、施設の閉鎖に向けて、その時点で施設内にいる帰宅困難者への対応を検討(あらかじめ状況を想定しておく)。
- 施設内にいる帰宅困難者への対応の検討が終わった時点で、施設を閉鎖(ゲーム終了)

一般的な閉鎖時の状況

項目	想定
鉄道	✓ 1都3県の鉄道各社は、ほぼ全線で運転を見合わせている。 ✓ 震度6弱以上の地域では、2～3日は運転再開は難しい。 ✓ 政府はバスによる代替交通手段の確保を検討中(時期は未定)
ライフライン	✓ 都心部を中心に広域で停電、断水が続いている。 ✓ 固定電話、携帯電話とも通話はつながりにくい。 ✓ 携帯メールは送信できるが、届くまでに時間がかかっている。 ✓ LINE、facebookなどのSNSはつながっている。

下記のテーマをもとに、受け入れ方針を検討する

- (1)どの程度のサービスレベルを想定しておくか。
- (2)一人当たりのスペースは、どのくらいに設定するか、スペースはどの場所を使い、何人受け入れるか
- (3)従業員は何人必要か、どのような役割分担にすべきか
- (4)受付には何人必要か、施設の安全性はどのようにチェックすればよいか
- (5)施設から他の施設にどのようなときに、どうやって移動するか、自治体とどのような連携が必要か
- (6)滞留者に情報をどのように伝達するか、滞留者をどう活用するか
- (7)施設の閉鎖時、どのような人が残ってしまうか
- (8)もっとも対応の難しい人はどのような人か、そのような人たちを当施設で受け入れるか、あるいはどのような事前の準備が必要か
- (9)もっとも難しかったイベントは何か、どのように対応すればよいか

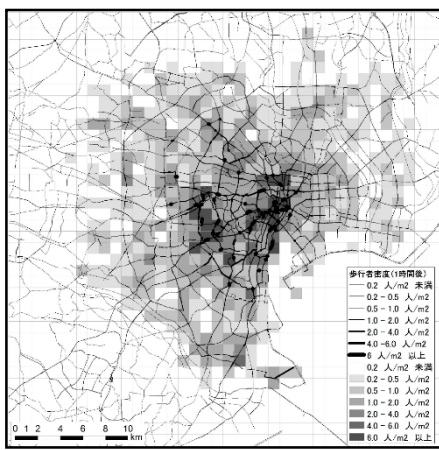
帰宅困難者支援 施設運営ゲーム (企業内待機版) KUG②

一時滞在施設確保の効果

□大都市圏避難シミュレーション(2015)による検証

1000万人シミュレーションの各ケースの特徴と結果

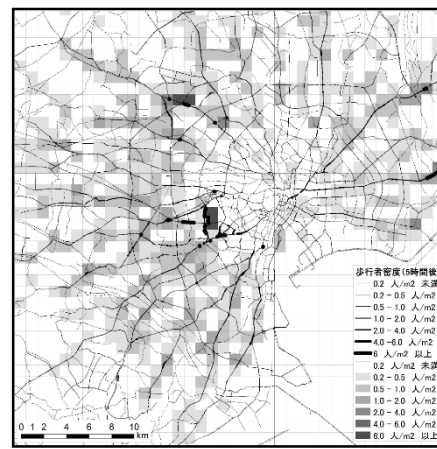
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5
帰宅開始時間	東日本大震災時と同様	一斉	一斉	一斉	一斉
従業員の帰宅・滞留	東日本大震災時と同様	全員帰宅	半分が滞留	全員帰宅	全員帰宅
私用外出者の帰宅・滞留	東日本大震災時と同様	全員帰宅	全員帰宅	半分が滞留	全員帰宅
車両による帰宅	PT調査の主要交通手段が自動車	PT調査の主要交通手段が自動車	PT調査の主要交通手段が自動車	PT調査の主要交通手段が自動車	PT調査の主要交通手段が自動車
車両による送迎	東日本大震災時と同様	東日本大震災時と同様	東日本大震災時と同様	東日本大震災時と同様	無し
1m ² 6人以上の平均道路延長(歩道, km)	0.04	5.10	1.43	4.24	5.10
3km/h未満となる道路延長(車道, km)	1307	1529	1527	1537	576



発災1時間後
(一斉帰宅時ケース)



発災5時間後
(一斉帰宅時ケース)



一時滞在施設の確保
よりも、従業員の滞留
のほうが混雑緩和に
効果大

このためにKUG②を開発しました

□ 帰宅困難者支援施設運営ゲーム

事業所滞留版 KUG②

KUG①よりも相当簡単なつくりになっています。

東京大学廣井研究室で開発中

帰宅困難者となった従業員を自分の会社内でどのように滞留させるか、図上訓練ツールのパッケージ化を行っています。

特徴(1) 事業所の特性に応じて、異なる被害ごとに、どこにいてもらうか、備蓄物資をどう分けるかなど、滞留方針を考えることができます。

特徴(2) 実様々なイベントを発生させることで、起こりうる事態を事前に想定し、チェックシートを用いて滞留方針を修正できます。

<http://www.u-hiroi.net/kitaku.html>

でzipファイルで無料配布中!!



キットの内容

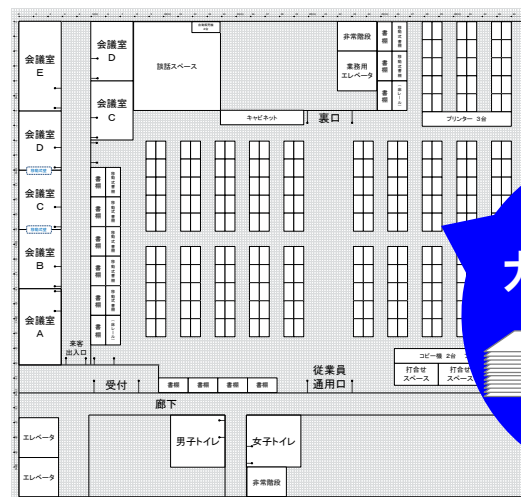
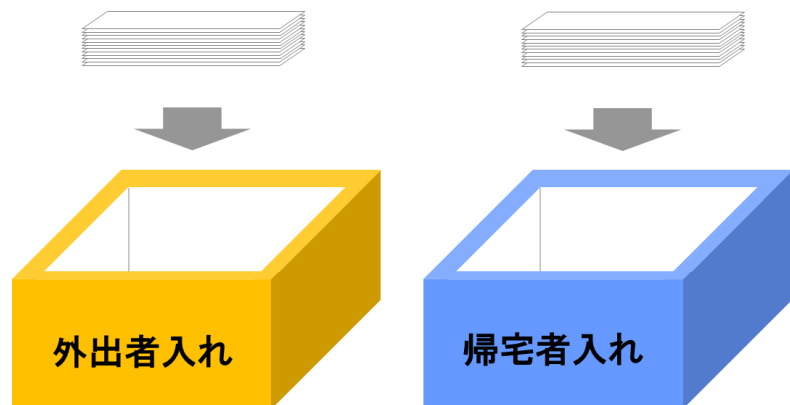
事前準備

時間配分: 7分くらい

① 外出中の人を「外出者入れ」に、休暇・欠勤の人を「帰宅者入れ」に入れてください

② 事業所内にいる役職員等を、所属部署ごとにフロアマップ上に積み上げます。

※このパートは、実際の災害対応においては、点呼の作業に該当します。



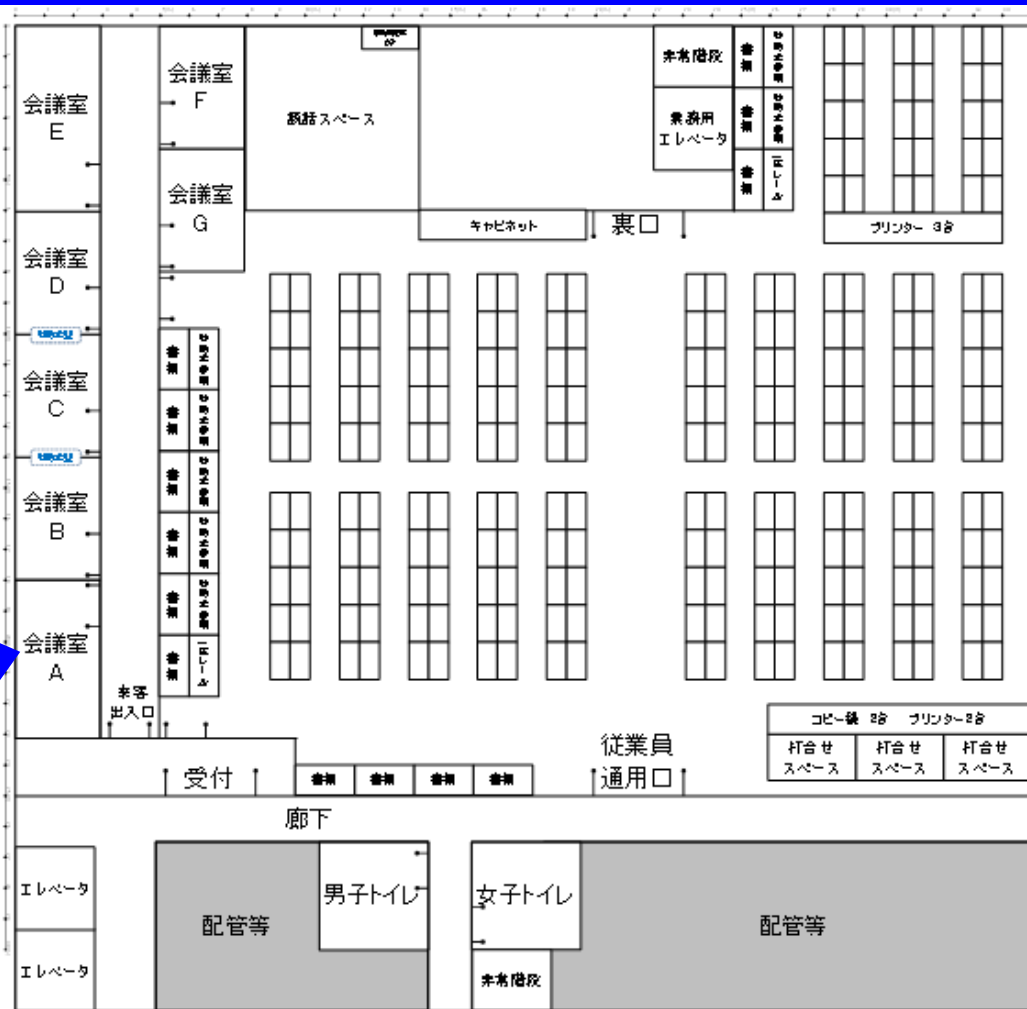
役職者等
カードを積む



事前準備

時間配分: 3分くらい

対策本部の設置場所を決めてください。



付箋に書き出す

対策本部

(1)役割を決める

(2)滞留方針を決める

(3)イベントへ対応する

(4)ゲームの終了/振り返り

(1)役割分担を決める

約 0分

- ・ 参加する皆さんの役割に大きな違いはありません、グループ内で分担・情報共有しながら実施してください。
- ・ ただし、最終的に方針を決める「対策本部長」のみ1名を決めてください。

対策本部長

1人
方針等が議論になった場合には、最終決定をする人を決めてください。

その他

その他の人
役割に違いはありません。イベントに応じて、手分けして検討し、各グループ内で共有してください。

**みんなで
検討**

(2) 滞留方針を決める

約 10分

滞留方針一覧を使って、まず最初の滞留方針を決めてください。

(現段階できちんと方針が決まっていない場合は、あとで修正するので、ざっくりでよいです)

第 1 版 (更新時間 14:30)

11.00

現在の企業内滞留方針一覧						
項目		方針				
待機方針		全員待機	原則待機	一部帰宅	原則帰宅	全員帰宅
備蓄品の管理方針	事業所管理	保存水	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		バランスパワー 6YEARS	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		災害備蓄用パン クランベリー&ホワイトチョコ	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		災害備蓄用パン オレンジ	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		災害備蓄用パン 黒豆	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		アルファ米 梅がゆ	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		アルファ米 五目ごはん	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		アルファ米 わかめご飯	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		簡易トイレ(まいにち マイレットmini1)	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		簡易組み立て式便座	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		リバーシブルアルミブランケット	提供	非提供	事情により提供	備考[]
		簡易エアーマット	提供	非提供	事情により提供	備考[]
個人管理備蓄品		個人管理		不在者分を回収して事業所管理		全て回収して事業所管理
共用部トイレの利用		通常通り利用		便器に図形割をセットして使用		簡易トイレを設置して利用(場所:)
人事情報の開示		開示		一部開示		非開示(通常どおり)
会議室等の利用用途	A会議室	用途を記入します。				
	B会議室					
	C会議室					
	D会議室					
	E会議室					
	F会議室					
	G会議室					
コンセント利用		使用可		条件付き使用可		使用不可
その他特例措置						

〇〇の場合のみ

用途を記入します。

(3)イベントを発生させる

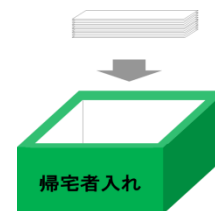
約 70分

- 進行担当が「**イベントカード**」をめくりますので、「対応事項」の内容を検討してください。(1イベント 約1～5分)

(注)該当者がいない場合には「該当者なし」とします。

(注)進行担当がいない場合には各班でめくります。

- イベントを踏まえて参加者のみなさんで**滞留方針を検討**して、帰宅させる判断をした従業員等は帰宅させてください(「帰宅者入れ」に入れる)。
- 滞留方針を変更した場合は、「滞留方針一覧」に反映してください。
- 決定した事項は、ホワイトボード等に記録してください。



No. 1	
イベントカード	
【日時】	1日目 12:05
社内から帰らせてほしいという要望があがっています。	
【補足事項】 社内にいる滞留者のうち1の位が1と2と3のカードの人が帰りたいと訴えているものとしてください。	

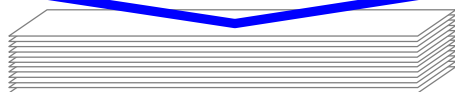
No. 6	
イベントカード	
【日時】	1日目 14:15
従業員の子供と友人(中学生)計8人が、近くまで遊びに来ていて帰れなくなったので保護を求めました。	
【対応事項】 必要な対応を検討してください。	

No. 11	
イベントカード	
【日時】	1日目 18:30
大きな地震の影響で、はまべ市の沿岸部に大津波警報が出されています。営業部営業3課の藤本さん(社員番号198)と品質保証部顧客サポート課の尾崎さん(社員番号290)から要望です。「3歳の子供を預けている保育園と連絡がとれないので帰宅したい」	
【対応事項】 必要な対応を検討してください。 津波の到達予想時間は1時間後で高さは最大20mとされています。	

No. 16	
イベントカード	
【日時】	2日目 6:00
朝になりました。今日は昨日に比べて気温がだいふ上がり、暑くなりそうです。社会インフラの復旧の目途は依然立っていません。	
【対応事項】 必要な対応を検討してください。	

No. 19	
イベントカード	
【日時】	2日目 12:00
「2時間ぐらい前に営業部営業3課の丸山さん(社員番号195)が外の様子をみてくると出て行ったり、戻ってこない。荷物等はそのままですが、どうしたらいいでしょうか？」	
【対応事項】 必要な対応を検討してください。	

No. 22	
イベントカード	
【日時】	2日目 15:00
隣のビルに入居してる密接な交流関係があるグループ会社の社員30人が「入居しているビルの非常用発電機が動かなくなりビルがロックアウトされたので、避難させてほしい」と訴え受付まで来ます。	
【対応事項】 必要な対応を検討してください。	



(4)ゲームを振り返る

約 30～40分

付属の「ワークシート」を用いて、それぞれの大項目ごとに気づいたことをポストイットで発表しましょう。それをもとに、滞留方針一覧を修正してみましょう。

「優先度」の考え方はA⇒B⇒Cの順に、「振り返りのポイント」の重要性・対応策の高さを示しています。振り返りの時間が不足する場合は、優先度の高い項目から議決することをお勧めします。

KUG② 振り返りワークシート

項目	振り返りのポイント	優先度
1. 帰宅・滞留の判断基準	①大きな状況変化に対して基準をどのように設定(変更)するか □現在の判断基準の見直しの必要はありませんか？(判断基準がない場合には策定しましょう) □判断基準の軸となる事項（行政の要望、交通機関の運行状況、家までの距離、移動手段、非常用設備の有無等）について見落としはありませんか？ □事業所内の什器等の移動防止・転倒防止等の対策は十分ですか？（どの程度滞留できる環境が整っていますか？）	A A B
	②個人属性への配慮 □配慮の必要な役職員はいませんか？対策はとられていますか？	B
	③個人の希望の考慮 □災害時に想定しておくべき「希望」に見直しの必要はありませんか？	C
	④自社従業員とお客さんとの判断の違い □平常時どのようなお客さんが多いですか？ □お客さん向けの備蓄品や滞在スペースの確保の必要はありますか？	C A
2. 備蓄品・取り扱い方針	①事業所管理備蓄品を提供するの可否か □事業所にいる備蓄品の種類、量、管理方法及び提供の考え方について見直しは必要ありませんか？	B
	②個人管理備蓄品の管理方法 □個人で管理している備蓄品の種類、量、管理方法について見直しは必要ありませんか？	B
3. トイレの利用方針	①フロアのトイレをどのようにするか（或いは簡易トイレを使用するか。） □事業所のトイレの耐震性（災害時にどの程度つかえるのか）の確認は必要ありませんか？ □災害用トイレを備蓄している場合には、その使用方針（使い方、使用場所、廃棄物の保管場所）について見直しは必要ありませんか？	B C
4. 機微情報の取り扱い	①平常時に人事のみ管理する情報などどのように取り扱うか □機微な情報のうち、災害時に必要となる情報はありますか？	C
5. レイアウト	①事業所内共用スペース(会議室等)の使用法 □役職員が事業所内に滞留する場合を想定して、事業所内スペースの使用方法について見直しは必要ありませんか？	A
6. その他判断	①助けを求めるヒトがいる □事業所に助けを求めることが想定される人はいませんか？	C
	②帰ってきたヒトへの対応 □外出している役職員への対応について見直しの必要はありますか？	C
	③急病人等の発生 □傷病者が発生した場合の対応について見直しの必要はありますか？	B
	④女性特有の配慮 □女性従業員への配慮について見直しの必要はありますか？	B
	⑤携帯電話を充電したい □災害時の事業所内のコンセント等の使用ルールについて見直しの必要はありますか？	C



**本日の内容について
ご質問があれば
以下のアドレスへお寄せください**

hiroi@city.t.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-hiroi.net/index.html>

(研究に関する質問など24時間いつでもOKです)

Yahoo ニュースでも執筆しています

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiroi/>